

京都岡本記念病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の臨床研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

承認番号	2019-20
研究課題名	子宮頸部細胞診で異形成が疑われた患者の経過：記述研究
研究責任者	【所属】 婦人科 【氏名】 古谷 幸子
研究主催機関	【主催機関】 京都岡本記念病院 【代表者】 古谷 幸子
研究期間	【開始】 倫理委員会 承認日 【終了】 2020年 7月 1日 (倫理委員会承認日より1年間)
研究の背景・目的・意義・方法など	背景 : 子宮頸部細胞診の異常とは、癌を疑う場合のほかに、前癌病変である異形成を疑う場合があります。その異形成には、子宮頸癌に進行する場合、正常化する場合、異形成が持続する場合があります。そのため、子宮頸部細胞診で異形成を疑う異常があった場合、どのように経過するかを見るため、しばらく通院が必要になります。 目的 : 子宮頸部細胞診で異形成を疑う異常があり受診した方々が、どのくらいの期間通院が必要であったかを調べます。また、その間の検査の回数や異形成から正常化した割合・異形成が持続した割合・異形成からがん化した割合を調べます。 意義 : これらの情報を得ることで、子宮頸部細胞診で異形成を疑う異常がある方々の今後の診療内容をさらに良いものにする検討をします。また、今後そのような方々におよその経過を説明することができます。 方法 : 診療録、細胞診や組織診の結果から情報を得ます。
対象者	2012年4月1日から2019年3月31日までに、子宮頸部細胞診で異形成が疑われ、当院で精査を受けられた方
試料・情報等の利用目的、利用方法	上記内容を調べるため、診療録、細胞診や組織診の結果を用います。研究結果から、個人が特定されることはありません。また、この研究は、当院の倫理審査会で承認された研究であり、厚生労働省・文部科学省「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」（平成27年4月1日施行）及び実施計画書を遵守して行います。
研究に用いる試料・情報の種類	診療録、細胞診や組織診の結果
備考	研究分担医師；婦人科非常勤医師 竹谷 朱

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報などを研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、[京都岡本記念病院 臨床研究センター 臨床研究管理室](#) までお問い合わせ下さい。